

第 2 回 会 議 録 【公表用】

付属機関又は会議体の名称		池袋駅周辺地域再生委員会（第2回）
事務局（担当課）		都市整備部 副都心再生担当課長
開催日時		平成27年10月14日（水） 14時30分～16時30分
開催場所		豊島区庁舎8階 議員協議会室
出席者	委員	岸井隆幸（委員長）、羽藤英二（東京大学 工学系研究科 教授）、東京都 都市整備局 都市づくり政策部長（代理）、東京都 都市整備局 都市基盤部長（代理）、東京都 建設局 道路管理部長（代理）、東日本旅客鉄道（株）投資計画部 担当部長、西武鉄道（株）執行役員 計画管理部長、東武鉄道（株）経営企画部長・池袋開発プロジェクト部長、東京地下鉄（株）鉄道本部 鉄道統括部長（代理）、（株）東武百貨店 総務部 部付部長、東武ビルマネジメント（株）SC事業本部 常務取締役副本部長（代理）、（株）西武プロパティーズ 常務取締役、（株）そごう・西武 本部 総務部 シニアオフィサー、（株）池袋ショッピングパーク 総務部長、（株）パルコ 開発部 部長、（一社）東京バス協会 常務理事、（公財）東京タクシーセンター 常務理事、東京商工会議所豊島支部 会長、豊島区観光協会 会長、西口駅前街区まちづくり協議会まちづくり協力者（株）三菱地所 開発二部 部長、としまF1会議委員、豊島区 区長、豊島区 副区長、豊島区 政策経営部長、豊島区 総務部長、豊島区 都市整備部長、豊島区 都市整備部 地域まちづくり担当部長、豊島区 都市整備部 建築住宅担当部長、豊島区 都市整備部 土木担当部長、国土交通省 都市局 街路交通施設課 企画専門官（オブザーバー参加）、国土交通省 都市局 まちづくり推進課 官民連携推進室長（オブザーバー参加）、UR都市機構 東日本都市再生本部 事業推進部 担当部長、豊島区 都市整備部 都市計画課長
	事務局	豊島区 都市整備部 副都心再生担当課長
公開の可否		公開
非公開・一部公開の場合は、その理由		
会議次第		<ol style="list-style-type: none"> 1. 開 会 2. 豊島区長挨拶 3. 委員長挨拶 4. 議事 <ol style="list-style-type: none"> 1) 池袋駅周辺地域まちづくりの将来像について 2) 今後のスケジュールについて 5. その他 6. 閉 会

■区長挨拶

- ・豊島区は新庁舎がオープンし、多数マスコミ等に取り上げられたり、自治体等から多数視察等があり、大変注目されている。7月24日には、「特定都市再生緊急整備地域」に指定された。これまで池袋は、新宿、渋谷に比べ1周も2周も遅れていた状況であり、ようやくスタート地点に立てたと思っている。これらをチャンスとして捉え、池袋駅周辺のまちづくりにしっかりと取り組みたいと思っている。指定にあたっては、具体的なまちづくりの姿や、形にしていくことが求められており、本日は、忌憚のないご意見、議論をお願いしたい。

■委員長挨拶

- ・東京都では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックや、それ以降の東京のまちづくりについて、様々な計画等が同時に検討されている状況にある。
- ・これらの計画等のなかで池袋がどういったポジションをしめていくか、この委員会で議論した知恵を、計画に反映していくよう提案していくことが、他の特定都市再生緊急整備地域と比べてさらに遅れないようにする上でも重要である。
- ・これまでも池袋では、この委員会をはじめさまざまな委員会等があり、議論をしてきており、そろそろ形にしたい。是非、ご協力いただき、実現していきたい。

■議事

【岸井委員長】

- ・まずこの委員会の運営、資料の確認について、事務局からご説明いただきたい。

【事務局】

(協議会の運営等について事務局より説明)

【岸井委員長】

- ・協議会の運営等について、質問等があればお願いしたい。
- ・本日は傍聴希望の方はいらっしゃるか。

【事務局】

- ・9名の傍聴希望と、1名の写真撮影希望がある。

【岸井委員長】

- ・事務局で傍聴希望者等の誘導をお願いしたい。

【岸井委員長】

- ・最初に、池袋駅周辺地域まちづくりの将来像についてご説明をいただきたい。

【事務局】

(資料1、2について説明)

【岸井委員長】

- ・今後のスケジュールもあわせて説明いただいた方がわかりやすいと思うため、お願いしたい。

【事務局】

(資料3について説明)

【岸井委員長】

- ・本日の委員会では、池袋駅周辺地域のコンセプトやまちづくりの方向性についてある程度イメージを共有し、それをベースに交通の基盤や、建物、その他の空間のしつらえ等に関するガイドラインを考えていく予定になっている。
- ・当委員会はあと1回あるが、本日の委員会では池袋駅周辺の将来像等についてご意見があれば出していただいて、整理をしていきたい。

【委員】

- ・資料2の「池袋駅周辺地域まちづくりの将来像と目標」の2枚目に「アジアの新文化を育むインキュベーション都市」とあるが、池袋の将来像は新大久保みたいなアジアを中心としたまちづくりを目指しているのか。現在、池袋には中国の方々が非常に大勢お見えになっているが、それを踏まえてそういったまちづくりを目指しているのか。
- ・豊島区には「国際アート・カルチャー都市構想」がある。欧米の人たちにも来てもらわなければならないと思うが、どうしてアジアに限定するのか教えてほしい。

【事務局】

- ・アジアに限定しているわけではないが、成長著しいアジアの活力を引き込むことで池袋の国際化を進展させていくことを目指している。指摘のとおり、特に池袋は中国の方をはじめ、アジアの方々の来訪者が多いため、そこに着目しないわけにはいかないと考えている。
- ・当然、欧米の方も対象であるが、「国際化」を目指すためには、まずは池袋の強みをさらに伸ばしながら、加えて欧米の方々も引き入れていくことが必要と考えている。
- ・何年前に話題になったような、「中華街構想」とかを再現するようなことはまったく考えていない。

【委員】

- ・文化の違う国々の人たちが大勢入ってくると、犯罪が多発する可能性も考えられるが、その辺はなにか調査を行ったりしているのか。

【事務局】

- ・国籍別の犯罪件数等についてはまだ調査はしていないが、当然、安全・安心についてはまちの基本と考えている。なんでもいいから国際化すればいいというものではないことは重々承知しており、そういったところも考慮してまちづくりを行いたいと考えている。
- ・今後どういう形でまちづくりを行えば、国際化を実現しつつ、安心・安全に暮らせるまちになるかということ、同時並行で考えながら計画を進めていきたい。

【岸井委員長】

- ・アジアの新文化を育むということには、アジアの方々に住んでいただくことも考えているのか。

【事務局】

- ・住むという選択肢も除外していない。

【委員】

- ・豊島区観光協会では、これまで一生懸命協議を重ねてきた結果、9月2日にストラスブール市と観光協定を締結し、来年2月にはストラスブール市長の豊島区訪問も予定している。そういう現実を直視し、商工会議所も欧米文化も取り入れながら豊島区をグレードアップさせていこうと、一生懸命、各種団体と頑張っているところである。
- ・このような状況のなかでアジアに限定されてしまうと、欧米の方々に間違った認識を与えかねない。もう少し行政の方たちも視野を広くして、どういうまちづくりにすべきか民間とワーキング等で意見交換を行い、積極的に意見を取り入れてほしい。

【事務局】

- ・アジアに限定しているわけではない。国際化ということでは認識は一緒だと考えている。ただ、成長著しいアジアの活力は国際化を目指す上ではなくてはならないため、その部分について特に記載しているところである。記載については工夫をしてみたい。

【委員】

- ・最初から「アジア」という言葉が要らなくなるのではないか。「アジア」という限定した言葉を入れると、そういったニュアンスを与えてしまう恐れがある。

【委員】

- ・住民の1人としても、やはりちょっと危惧してしまう。

【岸井委員長】

- ・アジアという地域だけを強く意識するのではなく、もうちょっと幅広く世界を見ながらまちづくりを進めることが必要かもしれない。当然アジアの方たちに対する戦略も大事であるが、それだけがまちづくりの全てではないということだと思う。事務局は、表現を考えてほしい。

【委員】

- ・まちづくり基本コンセプトからは、アジアの住む人も滞在する人も受け入れたいといったイメージを受ける。具体的な戦略を示す整備目標では、文化を創出するために受け入れるといったように読み取れる。住む人と滞在する人は目的がまったく違う。具体的にどういうまちづくりをしようとしているのかが見えてこない。
- ・池袋駅の周辺地域では、実際にいろいろな文化があると思っている。目白と雑司が谷ではまちとして全然違う。東池袋や西池袋もまた個性がある。そこにまた新たにアジアの人たちが住むようなまちをつくるようなイメージを受ける。
- ・池袋駅の周辺地域の人たちは、池袋駅の周辺には歴史を育んできた部分が結構あると思っている。住んでいてもその点が安心な空間づくりにつながっていると思っている。今、子育てをしながら住んでいるが、都市部に近いけれどもすごく安全で、安心できるところが池袋駅周辺地域の売りではないかと思っている。海外からの住む人を増やすことは、逆にそういう人たちが離れていってしまわないかと感じた。
- ・文化を育むという意味では、アジアの人たちを受け入れることはすごく重要だと思う

が、今の池袋駅周辺地域のいろいろな文化、地域の人たちが育んできた祭りなど、池袋の魅力をもっと海外に発信することも、まちづくりの将来像の中に入れてほしい。

【事務局】

- ・訪れることと、居住というのはまったく違うといったことが確かにあるが、例えば国際的なビジネスマンや文化・芸術に携わる外国の方たちが、国際化したこの池袋に職を持ったり、池袋で活動する際に、職住近接の考えのなかで池袋に住むことも選択肢の中には入ってくる。よって、そういった機能を備えることは重要になる。単に観光都市というだけでは幅が広がらないところもあるため、住むという選択肢も入れながら、考えていきたい。
- ・地域文化の発信については力を入れているところであり、当然念頭に置いている。ただし、それだけではなく国際的な文化もこれから育んでいくことを考えており、そのことをインキュベーションという言葉を用いて示している。それらが融合することはあり得ることだと考えている。

【委員】

- ・住むという機能を入れることにはまったく反対ではない。ただし、具体的に住むとしたらどういうふうに住んで、地域の人とどういったコミュニケーションを図っていくのかなどが資料からは見えてこない。全員がアジアの人を受け入れるわけではないと思うが、どういった人たちをターゲットにしている、どのように住む人、滞在する人を受け入れるのかということが見えると、安心できるのではないかと思う。

【岸井委員長】

- ・委員の方々のご指摘は、資料2の3ページ目の「池袋周辺地域の整備目標」の中に、目標を実現する戦略が整理されているが、これが「目標」として掲げているまちづくりと合っていないからではないか。
- ・整備目標①の中に「アーティスト・イン・レジデンス」といった言葉があるが、これは住むといってもアーティストがそこに居を構えながら作品を作っていくといったイメージが示されており、アジアの村をつくるとは書いていない。原案を作った事務局も、完全に居住区をつくるといった感じには思えない。

【事務局】

- ・居住機能としては先ほどの「アーティスト・イン・レジデンス」や「サービスアパートメント」などをイメージしており、凝縮した村をつくるのかそういったことは一切考えていない。

【委員】

- ・行政が積極的に外国人との共生を進めるとなれば、行政のほうでどういう受け入れをして、どういうふう外国人を教育し、どうやって日本の文化を伝達するのかということが、大変大きな課題になると思う。今後、共生していくための仕組みを行政として相当はっきりと説明しないと、反対する人も出てくると思う。その辺はよく考えて、文書にしてほしい。

【委員】

- ・資料2の3ページ目の「池袋周辺地域の整備目標」の2つ目に、「徹底した歩行者中心のまちの創出」とあるが、例えば駅前の幹線道路を歩行者空間に置き換えるなど、こういったまちづくりを徹底的にやっていくことについては東京都知事も「ディモータリゼーション」という言葉を使っており、そういう方向は大賛成である。
- ・しかし、副題の「くるまが見えない・くるまを意識しないまちづくり」については、ここまで思い切った目標をたてるのは無理かとも思う。池袋駅はターミナル拠点であり、鉄道から鉄道への乗り換えだけでなく、鉄道を利用した方がそのあとバスやタクシーなどの公共交通に乗り換えるといった交通結節機能も確保しなければならない。車全体の排除というところを強く出し過ぎると、まちづくりがうまく進まない場合も考えられるため、注意が必要と思われる。

【委員】

- ・資料2の1ページ目の左側の見出し部分で、「東京のなかの池袋」として沿線の広大な後背居住圏について記載されている。これを池袋の特徴として相当意識していると思うが、2ページ目、3ページ目の中に表現が何も出てこないと感じた。
- ・池袋駅は交通結節点であり、東武、西武、JR、地下鉄がしっかり整備されているターミナルである。これらの後背地にある文化とか色々なものをうまく融合する新しいまちづくりみたいな視点を、最後の3ページ目のところに書くのは難しいと思うため、2ページ目のところにエリアの拠点といったキーワードを出すのがいいと思われる。

【岸井委員長】

- ・資料2の2ページ目でいうと、委員の意見は「懐の深さ」というところあたりが該当するかもしれない。つまり後背地にずっと抱えている地域にもかなり色々なものがあるって、それが池袋に来て花を開いているということが、池袋という地域の特性の一つだと思われる。沿線の中で強いものがあれば、それはなるべく池袋の力として使っていくべきではないかと思う。そのあたりは非常に大事なことだと思う。
- ・池袋駅周辺地域のまちづくりの将来像と目標の次に、ガイドラインが続く。ガイドラインは、公共的な交通基盤の話や、例えば池袋駅周辺で開発するにはこんなことに気を付けてやるといったことが、戦略に沿って展開されることになる。よって、事業を今考えている事業者は、このような戦略だけで自分たちの考えていることと合っているかどうか、もし事業者としてこういうことをぜひやったらいいと思うようなものがあれば、この中にうまく書いておかないと、あとで書き込むタイミングがなくなってしまう。ぜひ、そういった観点でも見ていただき、ご意見をいただきたい。また、国や都の方には、池袋は都市再生特区としてほかの地域に比してそんな色はなく、あるいは協調的にうまくやっていけるといったことなどを、ご指摘いただければと思う。他でも似たような文化とかを謳っている地域がある。競争するのは悪いことではないが、やるならばもう少し狙いがうまくお互いを刺激し合うような形のほうがよりいい方向になると思う。同じ機能を奪い合うのではしょうがなく、少しずつ違うことをやっていくことで、全体がグッと上がっていくような仕組みが一番望ましいと思う。池

袋のキャッチフレーズや戦略について、東京都全体、日本全体にとってそれほど違ってないどうかといった目でも見ていただき、ご意見等があればぜひいただきたい。

【羽藤委員】

- ・コンセプトにおけるアジアという言葉出しについて、同時にリスクもあるのではないかといったご意見だと思うが、これは私もたぶんリスクがあると思っている。例えば、フェスティバル／トーキョーを池袋で相当続けられているが、あそこの中でも必ずしもアジアの演劇のプログラムだけを取り上げているわけではなく、実は東欧だったり、中央アジアだったり、どちらかという小国というか、世界の中でも非常に文化的に多様な国家とかをアジアに限らず拾い上げている。おそらくそういったところが、池袋や豊島区の非常に大きな特徴であり、もう一つの東京の中の文化の拠点である上野と比べると、非常に特異な性質を持っていると思う。よって、アジアに限定するというよりは、そういう小さな個性的な文化を池袋がいかにかたおやかに受け止めるのかということに関して特徴を出していくことが、重要ではないかと思う。
- ・一方で、池袋は非常に暮らしが近いところにあるために、むやみやたらに海外のものを受け入れてしまうと、ひょっとしたら混乱がおこるかもしれない。それは昨今の日本が、移民や難民の受け入れに対して世界的にある意味非難されているのと同じで、どういうふうに世界の文化を受け入れるのかということでは、非常に難しさを我々は抱えていると言える。そういう中で文化プログラムをやっており、アーティスト・イン・レジデンスを実施しているノウハウを生かして、いかに安全な形で他国の方を受け入れるのかといった受け入れ方とセットで、あるいは彼らが滞在する場所をどのように使ってもらえるのかといったマナーみたいなことも含めて、他国の流儀をむやみやたらと日本で展開するのではなく、日本なりの受け入れ方のルールの中で受け入れていくところで交流がうまい形で図られていくような、交流の仕方を育てていくといったところが、おそらく池袋に求められているのではないかと思う。
- ・フランスのストラスブールの話が出て、これはある意味非常に参考になると思った。ストラスブールは、非常にドイツ語的なスペルで、歴史的にもドイツかフランスかというところを行ったり来たりしていて、いろいろな文化を摂取している都市である。そういった点もなんとなく池袋に非常に近いのかなと思った。あそこの駅も、古い駅舎の外側をまったく新しいガラスのドームでくるむことで、駅が非常に新しくなったような空間になっている。そういったことでまちが変わるといったイメージをつくり出している。あるいはロム・ドゥ・フェール広場は、歩行者と LRT が一体になった空間をつくることでまちが活性化している。ある意味池袋の空間モデルの先例になるようなところでもある。そういうところはこの全体の委員会の中でもまちづくりの参考として、いいところを取り上げていくことが大事だという気がした。
- ・治安について、池袋では、広場とか辻とか小さい空間を、アートや演劇のためなどに、あるいは市民の皆さんと共有していくことになるのだろうと思う。例えば、スペインのバルセロナでオリンピックがあったときには、多孔質化戦略という戦略をとって、スラムの中に穴を開けるように広場をつくっていった。広場というのは transparency

であり、どこからでも見えるため、犯罪が減った。空間整備の中では治安を維持するような機能もあるため、ぜひそういったアイデアを海外の空間計画の事例から、いかに池袋らしさを反映させながらつくっていくかということが求められる。演劇をやるような共有空間（common space）が治安の維持に貢献できる。そういうところの使い方を海外の方と共有化して行って、むやみやたらに異国の文化と日本の文化がぶつかり合うようなことはなく、池袋らしさ、豊島区らしさの中で暮らしていただくといったことを、今回のガイドラインというか、まちづくりの将来像として描けるといいのではないかなと思った。

【岸井委員長】

- ・空間の使われ方、空間はどうやってしつらえるかというのは、これからたぶんガイドラインのほうにも反映されてくる内容になると思われる。

【委員】

- ・資料2の3ページ目、鉄道がやはり池袋の西と東を分断しているという気がしているため、こういう形で東西の一体化したまちづくりをやっていただければ、われわれもここに一緒に参画してやっていけるかなと思っている。協力したい。

【委員】

- ・駅の東西を一体化したまちづくりということと、そこを中心に池袋のまち自体をモールとしてその中を回遊できるような、一つ一つが独立しているのではなく、1+1=2になることによって、3とか4とかになるようなまちづくりができるといいなと思っている。そのためには、歩行者なり、池袋を訪れた方たちが回遊できる、しやすいまちづくり、もちろん安全にということも必要である。
- ・生活に近い、生活者が多いまちということで、そこに住んでいる方も交流できる、そういうまちづくりになればいいなと思う。そういった要素がこの5つの戦略の中に入っていると認識しているため、われわれもぜひ協力してやっていきたいと思っている。

【委員】

- ・資料2に2回出てきている「スーパー・バリアフリー」という言葉について、2ページ目の「人間優先のスーパー・バリアフリーな都市空間」は、いわゆるソフト的な考え方のスーパー・バリアフリーを示していると思う。一方、3ページ目に出てくる「誰もが自由に安全に移動できる徹底的なスーパー・バリアフリー」はハード的な意味合いで使われていると思う。ソフト的な意味合いと、ハード的な意味合いを同じ言葉で使うことは、内容が非常に分かりにくいところがあるため、言葉を分かりやすくしたほうが良いと思う。
- ・「インキュベーション」という言葉が、もう10年ぐらい前からある言葉で、今使うのは果たして適当かなと思う。ちょっと古いといった気がしないでもない。

【岸井委員長】

- ・大変大事なご指摘で、言葉遣い一つで最初の印象が変わる。
「インキュベーション」は、分かりやすさ、新しい文化を育てていく場所として、大

変いいのではないかということとその言葉を使っているだろうが、ちょっと古いのではないかといった印象を持たれないかといった意見である。

【委員】

- ・東京の国際化といったときに、必ずしもエリアごとにまったく同じような金太郎飴でやるのではなくて、たぶんそれぞれが色々な強みとか状況を踏まえて国際的な魅力とか競争力を付けていって、トータルとして東京なり日本が競争力を持つというのが大事なのだろうと思う。
- ・そういった意味で「国際アート・カルチャー都市構想」というのが、国際的な魅力を付ける上で大きな重しになってくると思う。今回の全体のまちづくりを踏まえたまちづくりの戦略と、国際アート・カルチャー都市構想の実現戦略自体がマッチして、それぞれが具体のまちづくりルールになっていけば、東京全体として見たときに、豊島区のよさを生かした国際競争力につながっていくのではないかと期待している。
- ・池袋駅周辺地域が特定都市再生緊急整備地域に指定されたということで、いろいろ活用できる制度がある。実はこの制度が今の法律だと、民間都市開発事業の申請が2年後の平成29年3月までになっており、期間が切れてしまうため、法律の延長などを検討しているところである。先ほど区長からも「形にするのが大事だ」ということもあり、指定を受けたばかりでまだまだこれから池袋駅周辺はやる人が多いと思うので、これからも法律の改定作業とか、予算要求の情報を適宜、区とも情報共有しながら、池袋駅周辺にフィットする制度についてはぜひ積極的に使っていただければと思っているので、よろしくお願ひしたい。

【委員】

- ・池袋駅周辺は、この30年ぐらい確かにあまり変わってないという印象がある。西口の芸術劇場のところはもともと結構浮浪者が多い公園だったのが変わったり、駅ビルも少し変わってきたりと、スポットでは変わってきているが、周辺はあまり大きく変わっていない。ここをまさにこういう計画を旗に掲げてやっていくというのは非常に価値のあることだと思う。
- ・今後は、この計画を踏まえたまちづくりの個別の方針を決めて、事業化に向けた具体的な取り組みをどうしていくか、いかに形にしていくかというところがすごく大切なところになる。全部いっぺんにはできないため、どのようなステップを踏んでやっていくのかということも重要となる。駅と絡めた周辺の都市開発や、さらには外国の方々をどのようにコミュニティで受け入れて融合していくのかなど、ある意味ソフト的なところもあるかもしれない。そういうところでいかに事業を実現していくかというところが本当に重要だと思っている。
- ・国土交通省も特定都市再生緊急整備地域に関連する制度や、その他いろいろな仕組みや支援できる制度があると思う。今後、話が具体化する中で我々としてもできるだけ協力したいと思っているので、引き続きよろしくお願ひしたい。

【委員】

- ・資料2の3ページ目に、「くるまが見えない・くるまを意識しないまちづくり」とある

一方、2ページ目の左下では「人と人が触発する、人の顔がみえるまち＝歩行者中心のまちづくり」と記載されており、歩行者系と自動車交通系の2つのアプローチが示されている。例えば3ページの右下にまちの構造のイメージ図があるが、自動車系のネットワークと歩行者系のネットワークの違いについてイメージができない。今のまちの状況を見ると、歩行者系はグリーン大通りでの歩行者の歩行機能やゆとり機能とか、にぎわい機能というものをイメージできるが、それ以外の地域全体の歩行者ネットワークや、交通系のネットワークがどうもイメージできない。それらがイメージ図等で示されると、まちの構造とか、人の流れとか、くるまの流れとかが、すぐにイメージしやすくなると感じた。

【委員】

- ・駅前広場、明治通りの下で、地下で公共駐車場を運営しているので、歩行者中心のまちづくりについて、直接事業にも関わってくるため、毎回、非常に関心がある。具体的にどういう絵姿になるのかをなるべく早く出していただきたい。

【委員】

- ・鉄道事業者として一番ご協力できるのはバリアフリー、それから案内サインの充実と考えている。案内サインについては各駅でも考えており、オリンピックに向けて変更とかを考えている。池袋についても大変混み合った駅であるため、案内サインについても今後充実させていくことに、ご協力していきたいと思っている。よろしく願いたい。

【岸井委員長】

- ・サインについては、東京都が東京駅において地下も含めて検討を行っている。また、新宿駅もターミナル協議会で検討しているため、必ず動き出す。池袋駅のサイン計画についても、新宿駅、東京駅のサインネットワークと連携して、みんなが見たときにサッと理解できるようなものにしておかないと、また「一周遅れ、二周遅れ」と言われてしまう。そこは頑張って挑戦してほしい。
- ・韓国のソウル大学の周辺は、非常に多くの小劇場が集積する場所になっている。その中心部に公園があり、その公園であらゆる小劇場のチケットが買えるようになっている。それも一つのソフトウェアだと思う。また、大学にパフォーマンス研究所というのがちゃんとあり、若手を教育して世に生み出していくといった仕組みも必要だと思う。
- ・渋谷で聞いた話になるが、渋谷の公園通りには下から順番にライブハウスが大きくなっているらしい。順番に上っていくのが、ライブハウスでやっている連中の夢で、ステップアップしていく道筋があるらしい。池袋においても、池袋だけで完結するか、東京都全体とするかはわからないが、最終的にはハイエンドな場所で表現できるような仕組みなどがあれば、文化という言葉の中に含まれているチャレンジングな部分につながるのではないかと思う。
- ・基盤の話は今後進めていくことになり、それに伴ってたぶんオープンスペースとか、ここにどういったものを具体的に整備するのかという点で、議論が少しずつ詰まって

きて、それをみんなが共有するために「ガイドライン」というものが役割を果たすと思っている。当然、時間を経れば社会情勢に応じて変わってくるものであり、それがずっと30年、40年同じものかどうかは分からないが、今はこれを皆さんで同じ方向に向かってやることで、動いた力が2倍、3倍になることを目指して進めていきたいと思っているので、今後もぜひご協力をお願いしたい。

【羽藤委員】

- ・池袋駅の一番大きな特徴は、300万人近くの日乗降客を誇る中で、非常に暮らしが近いことである。このアンビバレントな状況が池袋の強みでもあり、ある意味弱みでもある。ここをどれだけ生かし切るかということが重要だろうと思う。そういう中で「時間消費型のまちづくり」ということをこの中でいっているわけだが、ある意味大きな可能性があるのは、消費というよりはむしろ蓄積ではないかと思う。何度も何度も訪れる。それを暮らしの中で培っているからこそ訪れる。あるいはそこで交流があるから蓄積されていき、それによって文化が育まれるという、従前のスーパーターミナルではあり得ないことが池袋では可能になりそうだとこのところを、ぜひこの地域の可能性として考えていただきたい。
- ・現在、次期の答申の中で首都圏の鉄道整備計画を考えているが、羽田、成田、あるいは首都の中において、ネットワークのつながり方が非常に大きく変化しようとしている。その中で池袋のポテンシャルもこれから変わってくる。それからもう一つ池袋の大きな特徴は、事業者が非常に多いということである。通常の駅だと、主要な事業者は1社から3社程度であるが、池袋は関係しているステークホルダーの方が非常に多い。これはある意味多様とも言えるし、やはり3人寄れば文殊の知恵というふうに、力を合わせないと囚人のジレンマになってしまう可能性もある。このところをぜひご理解いただき、この場を最大限生かし切ることが重要ではないかなと思う。
- ・「懐の深さ」という話があり、池袋はまさに空間の形が他の駅とは非常に違うと思う。ゾーニングみたいなものではみえてこない、この空間の特性を最大限生かした池袋独自の空間行動、ルールを作っていくことが重要だと思う。

先ほどソウル大学の話が岸井委員長からあったが、できる限り海外とか、いろいろな事例を下敷きにして池袋なりのルールを作っていただきたい。例えばロンドンにはエキシビジョン・ロードがある。まさに池袋の先を行っているような話であるが、ミュージアムがあったり、インペリアル・カレッジがそこに面していたり、そこにシェアード・スペースというような形で空間の使い方を多義的に変えていくといったような形でさまざまなことをやっている。

あるいはここでは拠点ビルというようなことを考え、地下から地上、高層までを一気通貫にどうやってつなげていくのかといった、縦の動線構造も必要になってくると思う。そうしたところはおそらく基盤のガイドラインで検討することになるが、最終的には、形にするという不退転の覚悟を持って取り組んで欲しい。ただし、それがやみくもなツルツルピカピカの開発になるのではなく、やはり暮らしの中で生かされる、あるいはさまざまな文化の方と持続可能な形で共有できるところを、つくっていくこ

とが重要だと思う。

- ・「一周遅れ、二周遅れ」という話があったが、だからこそ池袋の個性が今引き立っている状況である。これを生かして、まちづくりガイドラインなどのまちづくりにご協力いただきたい。

【岸井委員長】

- ・ありがとうございました。最後に今日の議論をお聞きいただいて、区長が帰られたので、渡邊副区長にご感想とこれからの決意をお話いただきたい。

【渡邊副区長】

- ・本日は活発なご議論をいただきまして、本当にありがとうございました。今日は2回目ということで、まずはたたき台というような形で、このコンセプトをご提案させていただいた。本日のご意見を踏まえてさらにとりまとめに向けて進めたいと思っている。
- ・アート・カルチャー都市構想の実現戦略について、懇話会、幹事会を開催し、年度末に向けて検討を進めていく予定である。文化、国際、空間の3つのテーマで検討していく予定である。こちらのガイドラインの検討と同時並行で進めていき、お互いに影響し合いながらまとめていきたいと思っている。
- ・ガイドラインのほうも、アート・カルチャーの戦略のほうも、一応の目標としては今年度末、あるいは来年初に向けてまとめていく予定である。何か固まったものを作るというよりも、まずは今の段階で目指すところをまとめ、そこから状況の変化に応じてどんどん書き変えていくような柔軟なものを考えている。ぜひ引き続き活発なご議論をいただき、また、いろいろと個別に事業者の皆様からヒアリングをさせていただいてご意見を伺いながらまとめていきたいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

【岸井委員長】

- ・本日は、事業者関係の方からあまり強く反対もされず、こういう方向で進めてもいいのかなというふう感じた。
- ・結構とんがった内容を議論しているが、われわれのような歳になると、通勤で池袋を通って都心に行くようなことはだんだんなくなってくる。西武鉄道や東武鉄道の沿線の人たちがこれからどういう生活をするかを考えると、池袋駅におもしろいところがあれば、変な話をすると、女房が死んだら、1人でマンションを買うかもしれない。沿線では、結構競争が始まっているのではないかと思っている。そういう意味でも、いわゆるビジネスとしての拠点のみならず、これまでもずっと非常に奥深い鉄道を抱えてきた池袋のファンもいっぱいいることから、そういう人たちが池袋で自らのアートを楽しむ、自ら何かをやるという場が、とんがっていなくても、どこにでもあると、皆さんが出てこられて、それはそれで楽しいまちになるのではないかと思う。あまりすごいものばかりではなくて、われわれも即参加できるものをつくっていただけるとありがたいと感じた。

【事務局】

- ・本日は誠にありがとうございました。特に鉄道事業者の皆様には前向きなご発言をいただき、これだと2020年のサインの統一化もできるものと解釈している。
- ・第1回の議事録については、10月23日までに訂正がある場合は、事務局のほうに申し出ていただきたい。特に申し出がなければ、ホームページで公開をしたい。
- ・次回は3月末を予定している。ガイドラインも本日の議論も踏まえた形で作成をしたいと思っている。作成の途上で個別に意見を聞かせていただくための場を設ける可能性もあるので、その際にご協力いただきたい。

以上

会議の結果	
提出された資料等	資料1 事業者ヒアリングのまとめ 資料2 池袋駅周辺地域まちづくりの将来像と目標 資料3 池袋駅周辺地域の都市再生に向けた検討スケジュール 参考資料1 事業者ヒアリングの詳細 参考資料2 池袋駅周辺地域まちづくりガイドライン（たたき台） 参考資料3 池袋駅周辺地域のポテンシャル・課題に関するデータ 参考資料4 グリーン大通りの活用について 参考資料5 旧庁舎跡地開発について 参考資料6 池袋駅周辺のまちづくり動向 第1回池袋駅周辺地域再生委員会議事録 池袋駅周辺地域再生委員会名簿
その他	